

平成20年度公立大学法人横浜市立大学の年度計画に対する各委員評価一覧

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
I 大学の運営に関する目標を達成するための取組	1	B	B	第1期目標・計画期間の後半に入り、いくつかの課題を残しつつも教育研究の充実を始めとする大学運営改善への努力が着実に進められている。
			B	年度計画はほぼ実施されている。
			B	・年度計画は概ね順調に実施された。 【問題点】① 奨学寄附金等の執行にかかる問題について ② 医学部医学科の入試過誤(出題ミス)について ③ 学位審査の問題を受け、医局の改革について ④ 医療事故について ⇒ 全学的に「コンプライアンス」及び「ガバナンス」改革の問題として、再発を防止しなければならない。
			B	-
			B	-
1 教育の成果に関する目標を達成するための取組	1	B	B	-
			B	-
			B	-
			B	-
			B	指摘事項となっていた懸案の「改善改革報告書」が、4年次生アンケート調査結果も踏まえ、当初計画より遅れ、平成21年6月漸くまとまった。各コースの改善改革計画は広範な分野にわたり分析し、具体的な課題の整理がなされており、一定の評価をし、労を多としたい。今後報告書で明らかとなったカリキュラムの改善・運営体制の整備など諸施策を精力的に推進してほしい。

年度計画(項目)	頁	自己評価	委員評価	コメント
1 (1) 学部教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	1		B	1)国際総合学部という新学部創設の理念の定着及びその具現化に向けてさまざまな取組みが進められていることは評価するが、懸案の改善改革計画書が今年度内にも作成されなかったことは残念である。4年次学生アンケートの徹底分析を含む報告書の作成を通じ、次年度以降履修モデルの修正及びこれに基づくカリキュラム全体の体系的・連関性の明確化等教育内容・方法の改革にさらに積極的に取組むことを期待したい 2)新入学生に対する充実した支援は特に必要にもかかわらず、全員を対象とするキャリアカウンセリングが実施されなかったことは残念であり、今後の早急な取組みを期待したい。 3)医師・保健師・看護師のそれぞれ国家試験合格率が極めて良好であったことを評価したい。なお看護師の本学附属2病院への就職率のいっその改善を期待したい。
			B	-
		B	B	・国際総合科学部～ ①平成21年4月に完成した「平成20年度 改善・改革報告書」がどのように実行され、問題点の解決になるかが重要である。 ②1年次生へのキャリア支援が不十分である。今後再改善が望まれる。 ・医学部～ ①国家試験の合格率 96.9%全国7位、保健師合格率 100%、看護師合格率 100%は大いに評価できる。 ②看護学科の本学附属2病院への現役生 60%の就職は十分とはいえず、対策が必要。
			B	-
			B	医学部関連は総じて着実かつ順調に計画が実施され、実技教育の強化により4年次生全員がCBT・OSCEも合格点に達したほか、国家試験では96.9%と高い合格率を上げ、看護学科でも合格率100%の好結果を生むなど相応の成果が見られた。
1 (2) 大学院教育の成果に関する目標を達成するための具体的方策	5		A	1)国際総合科学研究科の新しい3研究科への再編が認可され21年度開設の運びとなったことを評価したい。 2)学位号の計画的取得に向けての各種の指導の充実が図られていることを評価したい。なお中期目標に示されている希望者全員の取得に向け指導の一層の充実を期待したい。 3)大学院の一部の専攻において入学定員と入学者数に大きな隔たりがあることは定員の設定自体にも問題があることであり、教育組織のあり方の観点からもこの問題に取り組まれることを期待したい。
			B	3研究科同時設置、連携大学院協定の締結など新しい組織に向けて動き出したことは評価できる。
		B	B	・国際総合科学研究科～都市社会文化研究科、生命ナノシステム科学研究科、国際マネジメント研究科の3研究科そろって設置準備を終えたこと、特に、生命ナノシステム科学研究科と独法、理科学研究所との連携は評価出来る。
			B	-
			B	大学院教育の学問領域を明確化し、教育成果を高めるため、国際総合科学研究科の再編を実施したことは評価できる。 ただ、その効果については開設まもなく平成21年度以降に期待される。 特に新しい分野である「都市社会文化研究科」について教育カリキュラムの編成・研究指導体制・行政とのかかわり方等々、成果に向けた努力が必要である。

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
2 教育内容等に関する目標を達成するための取組	8	B	B	-
			B	-
			B	① 医学部医学科の第2次試験において、入試過誤(出題ミス)が発生したが、アドミッションに関する総合的な体制整備については、アドミッションセンター長を配置したに留まることなく、アドミッション委員会の役割を十分に果たして頂きたい。 ② FD活動の充実については、年度計画の「引き続きFDに関する実施計画を検討、作成し実施する。また、次年度に向けた改善のため、実施状況、効果等を検証する」が十分であったか?～(項目別状況表の自己評価は殆どがBである。)
			B	-
			B	-
2 学部教育の内容等に関する目標を達成するための具体的方策 (1)	8	B	B	1)アドミッション委員会が設置され、関係規定の整備、専任のセンター長の配置などの体制整備が進められていることは評価する。今後大学院を含む大学全体のアドミッションポリシー実現の中核として活動することを期待したい。 なお、入学試験における出題ミス等のトラブルは受験生全体の将来にかかわりかねない重大事であり、そうした不測の事態が今後起こらないよう、緊張感を持って入試事務の遂行に当たられたい。 2)国際総合学部におけるTA・SAIに関するアンケートを実施し課題の把握に努めたことは評価するが、具体的な改善の方向を明確にし、その早期実施を期待したい。
			B	入学者の受入方針についての検討、入試広報を工夫するなど、質の良い学生確保に努力した。教員の教育能力の向上に向けた取組を実施したことは評価できる。
			B	・国際総合科学部 GPAの導入について、本格実施に向けた課題の抽出を図ったとあるが、その課題を明らかにし、方向性を明確にされたい。
			B	-
			B	少子化時代を背景に大学法人経営にとって入学者対策は極めて重要な戦略的課題であり、従来の入試管理委員会をアドミッション委員会と改め、アドミッションセンターを設置し、専任のセンター長を配したこと、又、アドミッションポリシーを制定し、方針を明確にしたことなどその意図の現われと評価したい。

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
2 大学院教育の内容等に関する目標を達成するための具体的方策 (2)	12	B	B	1) 医学研究科に関する英語版の紹介資料やWebサイトへの掲載が行われなかったことは大変残念であり、早急な取組みを期待したい。
			B	新しい研究科に期待する。
			B	-
			B	-
			B	-
2 教育の実施体制等に関する目標を達成するための具体的方策 (3)	14	B	C	1) 中期目標に掲げる教育組織と研究組織の分離を前提に研究院や病院から教員を確保しカリキュラムの充実を図るという構想について、未だに基本的方向についてコンセンサスが得られずその実体化が進んでいないことは大変残念であり、早急な取組みを期待したい。
			B	-
			B	・ 中期計画の「教育カリキュラムに応じて研究院や病院から教員を確保できるよう学部長と研究部長が調整する仕組みの構築」(領域横断的な教員の確保に向けた仕組みの構築)については不十分であり、要改善事項と考える。
			B	-
			B	教育の実施体制として研究院・病院等との連携は、領域横断的な教員の活用として、又、組織の活性化のためにも極めて重要であり、具体的に進んでいないことは遺憾である。 特に、研究院の位置づけ・あり方について、理事長・学長のリーダーシップの下、全学的な議論を進め、早期に一定のルール・仕組みの構築を図ってほしい。

年度計画(項目)	頁	自己評価	委員評価	コメント
3 学生の支援に関する目標を達成するための取組	15		B	1)一般選抜以外の留学生対象入試等の合格者についても入試特待生制度を導入することについて、さらに検討を進められることを期待したい。 2)八景キャンパスにおける耐震補強は学生・教職員の安全確保のうえからも喫緊の課題であり、市との積極的な協議により早急に取り組まれたい。 3)キャリアサポーターの登録人数が計画数を上回るなどキャリア支援活動の充実が図られていること評価したい。 4)学生の健康・メンタルヘルス支援の一環として保健管理センターの組織体制が整備されたことは評価するが、その機能の一層の充実を図ることを期待したい。 5)国等の奨学金制度のいっそうの活用を促進していることは評価するが、特に貸与奨学金については返還意識の涵養についても十分配慮されるよう期待したい。
			B	A 相談体制の充実、情報実習室の増設を行う等、学生支援に前向きであることは評価できる。
			B	B ・厳しい経済状況の中、就職率は前年度並みを維持しており、また、医師、看護師の国家試験合格率が引き続き高水準を維持している。平成20年度からの保健師国家試験も合格率 100%となっており、評価できる。
			B	B 計画通りよく実施されている項目が多い。成績優秀者特待生制度は断念された。様々な困難はあろうが、別の形態での学生支援の可能性をお考え頂きたい。耐震補強は計画に従って必ず実施して頂きたい。
			A	A 学生支援に関する取り組みは、かなり広範な分野にわたり、施策が展開され、相応の成果を上げていると評価したい。特にIT環境の整備が、最新ソフトウェアの導入、情報実習室の増設など、着実に進められており、その効果を期待したい。厳しい経済状況の中、就職率は前年度並みを維持し、医師・看護師の国家試験合格率も高水準を維持しており、成果を評価したい。
4 研究に関する目標を達成するための取組	18		B	1)先端医科学センターを拠点とする研究が文科省の科学技術振興調整費の課題に採択されたことは、これまでの外部研究資金獲得の流れの中でも画期的なことであり、センター施設の建設準備を進めるなどこの分野における研究の一層の充実発展を期待したい。 2)文科省の科学研究費補助金の採択件数及び採択金額がともに前年度からわずかながらも減少していることは、この研究費の重要性及び全体的な増額傾向から見れば残念なことであり、特に若手研究者の採択件数の増加を期待したい。 3)総合的な研究倫理体制の確立に向けた規定の整備が遅れていることは残念である。また、過去に生じたこととはいえ奨学寄附金の不適正な取り扱いが判明したことは、研究者の研究倫理や研究資金のあり方に社会的な疑惑を招くことになり極めて遺憾である。再発防止にむけ関係規定の整備とその厳格な執行はもとより、特に研究者の意識改革を図るべく全学を挙げた取組みを期待したい。
			B	B 研究費の獲得に向け学際研究ユニットが構築されたこと、科研費申請が伸びたことは評価できる。
			B	B ・科学研究費補助金等の外部研究費について、文部科学省の「科学技術振興調整費」採択など、大型の研究費の増加は評価できる。 ・奨学寄附金について、架空発注により業者に資金をプールしていた問題については、全学的に「コンプライアンス」及び「ガバナンス」の問題として、再発を防止しなければならない。
			C	C 研究費の「あずけ金」問題は、多くの大学で発生しており、起きてはならない問題である。今回の場合、額の高さや使い方の問題点など深刻であり、再発防止のための研究費執行体制が必要である。
			B	B 研究推進センターおよび先端医科学研究センターを中心に、研究を推進する体制が徐々に充実してきている。平成20年5月には、初めて文部科学省の「科学技術振興調整費」に課題が採択され、又、学内での外部研究費に対する意識が高まってきたことなど、一定の成果がみられる。

年度計画(項目)	頁	自己評価	委員評価	コメント
II 地域貢献に関する目標を達成するための取組	21	B	B	1)地域貢献センターの設置構想は、基本的には意欲的な取組みと評価しうるものの、中期・年度計画では想定されていなかったことであり、これらとの整合性を整理するとともに、今後の具体的な取組みの方向性を明確にされたい。 2)エクステンションセンターの講座について受講者が大幅に増加するなど改善が進められていることは評価できるが、教職員の主体的参加による講座の充実さらに努められることを期待したい。
			B	市立大学という性格から、地域貢献には多角的な検討が行われていることが拝察できる。
			B	・12月に「地域貢献プロジェクト」を立ち上げ、産学官連携、高大連携などの部会での議論など、生涯学習講座のみならず、本学全体の地域貢献のあり方や取り組みの見直しを行ったとあるが、「地域貢献プロジェクト」の報告書等を精査して、重要性の高いものから年度で実現すべきと考えるが、その取り組みは十分とはいえない。(・エクステンションセンター ・地域医療貢献推進委員会 ・eラーニング 等)
			B	-
			B	地域の中核医療機関として、地域医療・市民医療の向上に大きな役割を担っており、各施策を年度計画に沿って概ね順調に実施していると評価したい。 又、専担組織として地域貢献センターを本年4月に設置し、都市政策部門・生涯学習部門を二本柱に組織体制を整備されたことは評価できる。 一方、エクステンションセンターの八景キャンパスへの移転により、その位置づけ・役割の見直しが必要であり、新体制による実施計画と合わせて検討してほしい。
III 国際化に関する目標を達成するための取組	24	C	C	1)UCSD等とのセメスター単位での留学実施への覚書の締結、留学生宿舍確保方策の策定などの年度計画記載のいくつかの事項が実現に至らなかったことは残念であり、大学の国際化に向けてのさまざまな取組みの一層の強化を期待したい。 2)大学全体としての留学生数が4年連続で大幅に減少していることは極めて遺憾である。広報、教育プログラム、宿舍等の受け入れ体制の在り方等その原因を的確に把握分析し、留学生に魅力ある大学づくりに早急に取組まれたい。 3)2年目を迎えたサマーサイエンスプログラムの内容の充実が図られていることは評価したい。大学の国際化に資するプロジェクトであり、今後参加学生・留学生の増加を期待したい。
			B	留学生の受け入れ、送り出しについては、プログラムの整備、寮舎の確保が整わなければ、軌道に乗っているとは言えない。早急な対策を期待する。
			C	・「国際化推進学長プロジェクト」を立ち上げ、国際化戦略であるミッションステートメントを策定したとのことであるが、年度計画にある「学生の留学の支援」「留学生受入れ」「教職員の交流」「国際社会への貢献」について、次年度以降に持ち越しとなった計画もあった。～取組みが順調とはいえない。
			C	計画を実行していくスピードが充分ではないように思われる。何項目も進行が滞っており、国際化の経験を積んだスタッフが不足している可能性がある。
			C	枠組みがやや不透明な国際化についてビジョン作りが本格化し、学長プロジェクトを立ち上げ、本年6月「ミッション・ステートメント」としてまとめられ、大きな方向性が整理されたことは前進であるが、限られた経営資源(人材・資金など)での「選択と集中」が当然求められ、今後、具体的な工程表づくりの中で、本学の国際化の特色をどう打ち出すかが問われる。

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
IV 附属病院に関する目標を達成するための取組	27	B	B	2病院間の連携強化、患者サービス改善、地域医療貢献への積極的取組み、医業収益の改善など、病院全体として年度計画が概ね順調に実施されているが、病院事業の実施に関連し競争入札の拡充等業務の透明性の確保を求める外部意見が公表されていることを重く受け止め、その改善に積極的に取組まれない。
			B	医療事故の再発防止に努めねばならない。
			B	-
			B	-
			B	-
1 安全な医療の提供のための取組	27	B	B	1)年度計画が順調に実施されている。なお、いかなる原因によるものであれ医療事故の根絶になお全力を挙げて取組まれない。
			B	e-learningが厚生労働大臣賞を受賞したことは評価できる。年度計画は概ね順調に実施できた。
			B/ C	① センター病院では、胃瘻チューブの不十分な挿入による腹膜炎が発症するという医療事故が起きた。 ② 附属病院では、放射線治療で3月に患者の取り違えがあった。また、センター病院でも昨年5月、患者搬送中にストレッチャーの転倒による事故があった。(7月14日発表) 以上の医療事故の原因究明と再発防止策を徹底的に行う必要がある。
			A	各項目について着実に実施している。この項目に対しては、今後とも全国の先頭に立つ意気込みでお願いをしたい。
			B	懸案となっていた、病院機能評価の継続取得・ISO9001認証取得・ISO14001認証取得への対応について、一定の方針が決まり、八景キャンパスで作成された環境管理計画を踏まえ、附属病院の実態・状況に即した環境管理計画及びスケジュールを本年度中に策定されるのは好ましいが、当初計画からの遅れを取り戻すべく実行段階でのスピード化が望まれる。

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
2 健全な病院経営の確立のための取組	30		A	1)2病院とも入院単価・診療収入の増加等により医業収益の増収が図られたことを評価したい。なお平均在院日数についてなお短縮の可能性について検討されたい。
				2)病院の自主的・自立的運営の確保は医業収益の改善はもとより患者サービスの向上からも不可欠であり、法人全体としての統制との調和の中で、可能な限り病院長権限の一層の強化等その具体策についてなお検討を進められたい。
				3)センター病院において省エネルギー推進に積極的に取り組み、中期目標数値以上の削減を達成したことを評価したい。
				B 大幅な医療収益の増収となった人件費比率の適正化に更なる努力が必要。
				B ・ 附属2病院の運営については、それぞれ増収や入院単価の増大等良好となっている。 ・ しかしながら、平成20年度の「横浜市包括外部監査報告書」によると次の「改善要望」が出されているので、平成21年度で改善していくことが望まれる。 ① 指名競争入札では、競争の透明性が確保されているとは言い難く、出来る限り一般競争入札の導入により、競争性を高めること。 ② 契約資料について、市大病院に組織として十分な管理責任を果たすことを求める。(適時適切に資料が提示されない) ・ 上記の2点は附属2病院のみならず、全学的に検討し、要改善であれば実行すべきである。
A 入院単価の伸び、外来患者数の増加により、病院が経営の確立に努力していることは明らかである。厳しい医療環境の中で、どの大学病院も努力しており、横浜市立大学の二病院も同様の経営改善が認められる。今後、病院の施設整備に関しても負担するということになる、大学としての教育研究に制限が生じ、大学として望ましくない結果となる可能性も踏まえ、今後の計画が必要である。				
B 付属2病院で大幅な医療収益の増収となり、入院単価・病床利用率等の諸指標も改善されるなど、相応の努力が認められ評価したい。ただ、全体の収益構造をみると、平成20年度「横浜市包括外部監査報告書」でも指摘されているとおり、高コスト体質の改善は進んでいない。費用管理体制の強化・入札制度の改革・人件費の削減など、重要な課題が依然残されており、次期中期計画の中で、一層の努力が必要である。				
3 患者本位の医療サービスの向上と地域医療への貢献のための取組	34	B	B	1)地域医療機関との連携強化、外来における診療遅延情報の提供等年度計画が概ね順調に実施されている
				B CMSや院外広報誌を発行。患者への医療サービスと地域医療に貢献した。
				B -
				B センター病院のホームページは若干改善の余地がある。
				B 地域医療の連携強化・市民医療の充実に向け、概ね計画に沿って順調に実施されており、紹介率・逆紹介率の向上、二次救急輪番実績の増加など成果がみられる。 又、市民講座の開催、充実にも精力的に取り組んでおり、評価したい。 さらに地域医療の連携強化を図るには、近隣の病院・診療機関とのネットワーク作りが不可欠であり、積極的に取り組んでほしい。



年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
4 高度・先進医療の推進に関する目標を実現するための取組	36	B	B	1)年度計画が概ね順調に実施されている。
			B	高度先進医療を実現するための努力が伺われる。専門外来も充実、拡大している。
			B	-
			B	がん診療の充実に努めている。
			B	-
5 良質な医療人の育成に関する目標を実現するための取組	37	B	B	1)職種を超えた医療人同士の知識・情報の共有と相互間の連携の強化を通じて地域全体で優れた医療人の養成を目指すという「市大病院学会」の構想は極めてユニークであり、今後ともその趣旨の実現を図るための幅広い取組みを期待したい。 2)院内保育所機能の充実など女性医師の育児支援を含む医師の就労環境の改善を進めていることを評価し、今後更なる取組みの進展を期待したい。
			B	24時間保育を開始したことは、医師不足を少しでも緩和するのに役立つと思われるので、週1回から徐々に増やすことを期待する。専門医育成のために種々のプログラムが計画・実施された。
			B	-
			B	横浜市立大学が、国立がんセンター病院手術部を支援するために人材を派遣し、結果として国立がんセンターの運営に大きく寄与したことは特筆に値する。
			B	-

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
V 法人の経営に関する目標を達成するための取組	39		B	新理事長・学長体制のもと意思決定プロセスの一層の効率化を図るなど経営改善への努力が重ねられているが、過去の不祥事が再び明らかになったことは極めて遺憾であり、コンプライアンス意識の徹底にさらに取組まれることを期待する。
			B	自主財源の比率を高めたこと、教員評価結果の処遇への活用を21年度より実施することに決定したなど積極的な取組みがなされた。
		B	B	・ 毎年の運営費交付金の減少にどのように対応していくかが大きな課題 ・ 人件費比率を減少させることの全学的検討 ・ 設備投資(大規模修繕を含む)について、中期計画が必要(市の負担であっても) ・ 全学的(医局を含めた)に「コンプライアンス」・「ガバナンス改革」が必要(いくつかの問題発生を受けて)
			B	
			B	-
1 経営内容の改善に関する目標を達成するための取組	39		B	1)学部ごとのコスト計算など学費積算に関する基礎的データの収集を進めたことを評価するが、その場合学費積算の基礎となるべき提供される教育の質、あるいは教育の機会確保等の公立大学として当然求められる公共性の確保という要素の評価方法についても理論的基礎を明確にされるよう期待したい。 2)経費削減策の一環としてコピー用紙の共同購入、複写機の一括導入等が行われたことは評価するが、大学全体としてさらに他の物品・サービスの競争入札・共同購入に積極的に取組まれたい。
			B	自主財源の比率を高める取組みの実施、人件費の削減・共同購入・省エネの啓発・省エネ機器への更新などによる経費抑制策を積極的に試みた。
		B	B	・ 個別事項は目標達成の取組みが良好で評価できる。 ・ しかし、① 毎年の運営交付金減少に関する件 ② 人件費比率の減少の件～平成20年度横浜市包括外部監査報告書で「病院」について、6.まとめ「高額すぎる給与費」と題した「意見」として、「給与のあり方は、民間病院の動向を反映しながら、漸次改定すべきである。」と述べられている。この2点について改善を要す。
			B	-
			B	収益改善に向け、計画に掲げた各種施策を展開し、寄付金・受託研究の獲得など、収益源の多様化を図る一方、費用の削減に努め、一定の成果は認められる。 又、付属病院でも、医業収入の拡大に努力がみられ、評価し、労を多としたい。 しかし、収益改善には、「横浜市包括外部監査報告書」で指摘されている構造的課題への取組みが不可欠であり、今後期待したい。 又、運営交付金の削減についても、中期計画ではいわゆるあるべき運営交付金の超過分は平成22年度までに解消することとしており、一段の努力が望まれる。

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組	42		C	1)前年度の学位審査問題に引き続き奨学寄附金の不適切な会計処理問題が明らかになったことは大学への社会的信頼を再び大きく揺るがすことであり極めて遺憾である。法令違反はもとより健全な社会慣行・良識にはずれる行為が再発することがないよう法人構成員全員が強い危機感をもち意識改革の徹底を中心に、法人全体としての強力な取組みを期待したい。 2)「人材開発プラン」に基づく職員給与制度の見直し及び人事考課制度の構築に至らなかったことは、適正な人件費確保の観点からも残念であり、早急な実施を期待したい。 3)全教員を対象とする任期制の実施に努力されていることは評価するが、任期制は教員の給与、評価はもとよりテニュア制度やサバティカルリープなど幅広い処遇改善策の一環として機能することが最も効果的であり、これらを含む総合的な教員処遇策の確立に引き続き努力されたい。
			B	監事監査と内部監査が有機的に機能している。コンプライアンス推進体制の見直しが行われた。
			C	
			C	・平成19年度の「学位審査に関する謝礼授受」問題、平成20年度はさらに奨学寄附金に関する不適切に会計処理の問題が発覚した。また、入試過誤問題や医療事故の発生が起きている。 ・教員と事務職の意見疎通が十分に図られているか、法人の業務運営上指揮命令系統がはっきりしているか等に問題はないか。
			C	全体が順調に運営されていても、一部で不祥事が発生すると組織のイメージを大きく低下させる。引いては、大学全体の経営にも支障が出るのでシステマティックに防止する体制が望ましい。
			C	教員評価制度が徐々に定着し、軌道に乗りつつあるとうかがわれるが、公平性・客観性を担保することが制度の要諦であり、運用面での努力を期待したい。 又、早期に人事・処遇面への反映を検討してほしい。 市派遣職員は法人固有職員への切替えにより、かなり減少しているが、依然半数以上を占めており、中期計画で目指す段階的解消には相当な開きがあり、抜本的な対策が必要ではないか。
3 広報の充実に関する目標を達成するための取組	44		B	1)年度計画が概ね順調に実施されている。
			A	学外へのPR、学内に対する情報発信など、多角的な取組みにより、発信拡大の効果も順調に推移している。
			B	-
			B	-
			A	広報については計画どおり順調に実施されており、多様な広報媒体を駆使し積極的な広報展開がうかがわれ、評価したい。 特に学生プロジェクトの各般にわたる広報活動について、学生の視点からの試みとして注目されているとのことであり、大いに期待したい。

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
VI 自己点検・評価、認証評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための取組	45	B	B	1)次年度に行われる認証評価に向け自己点検評価の実施等の準備が着実に進められていることを評価したい。こうした作業を通じて大学構成員全体が組織全体に関する問題意識と構成員としての一体感を共有することを期待したい。
			B	評価体制の整備と共に学内の意識・意欲が高まったことは評価できるが、評価結果をどのように大学運営に反映させるかが今後の課題である。
			B	-
			B	順調に実施している。
			B	平成20年4月評価センターが設置され、認証評価への体制が整備されたことにより、自己点検の実施体制・スケジュール管理も定着しつつあると評価したい。 ただ、進捗状況の把握と常時監視が必ずしも十分でなく、特に指摘事項・未対応の事項について各部署の責任者が、リーダーシップを発揮し、達成に向け積極的に取り組んでほしい。
VII その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組	46	B	B	年度計画が概ね順調に実施されている。
			B	問題点を洗い出し、より安全・安心な大学運営を期待する。
			B	-
			B	-
			B	学位審査にかかわる問題、奨学寄附金の不適切な執行など、不祥事が続き、大学の信頼を損なう結果となったことは極めて遺憾である。 大学のガバナンス機能の強化とコンプライアンスの徹底等の必要性が改めて確認された。 すでに再発防止策として様々な施策が実施に移されているが、教職員の意識改革など組織へ浸透するまで、理事会等で十分監視していくことが望ましい。

年度計画(項目)	頁	自己評価	委員評価	コメント
1 安全管理に関する目標を達成するための取組	46	B	B	1)年度計画が概ね順調に実施されている
			B	-
			B	-
			B	-
			B	耐震強化の必要が迫られている八景キャンパスの整備については、安全にかかわる問題であり、横浜市へ早期に対応を急ぐよう要請してほしい。
2 情報公開の推進に関する目標を達成するための取組	47	B	B	1)年度計画が概ね順調に実施されている。
			B	-
			B	-
			B	個人情報保護法あるいは市の条例等にもとづき研修・自主点検の実施など、具体的施策を展開しているが、大学の膨大な個人情報を考慮すると、一段の個人情報管理体制の充実と具体的な仕組みづくりが急務である。
VIII 予算、収支計画及び資金計画	47	B	-	-
			-	-
			-	・「借入金」が年々増加しているが、「計画」が短期借入金限度額40億円となっており、その範囲内ならば良しと考えてよいのか。(借入金は全て横浜市より)借入金残高が、平成20年度末で3,649百万円と、平成17年度末の1,074百万円に比べて、2,575百万円増加している。 ・「借入金」の考え方と「運営交付金」の考え方を横浜市と協議が必要と考える。
			-	-
			-	-

年度計画(項目)	頁	自己 評価	委員 評価	コメント
----------	---	----------	----------	------

■備考(総合的な評価コメント等はこちらにご記入ください。)

法人全体としては、前年度に引き続き、多くの構成員の努力により年度計画が着実に実施されているが、第1期中期目標期間の後半に入り、それぞれの目標・計画により達成状況に相当のひらきが出つつあることも事実である。法人として今後残された期間に重点的に取り組むべき課題、あるいは次期期間との連続性のなかで達成を目指すべき課題など、目標に示されている課題の選択とその選択に基づく具体的取り組みの進め方について、方向性を明らかにされることを期待したい。

-

1. 横浜市公立大学法人全体(大学、大学院、病院を含めた総合的)としての ①「コンプライアンス」 ②「ガバナンス」改革が急務と考える。
2. 「運営交付金」について、横浜市と横浜市公立大学法人との間で、透明性のある基準等によって、金額として計画に具体化されないでしょうか。
3. 「運営交付金」を除いた、部門別損益面からの評価は、別添資料(4枚)参照。
4. 個別の計画については、それぞれの部署で良く実行されており、評価できる。

・病院は着実に運営されている。これは国立大学法人の多くの病院同様であるが、一方でまた経営を重視する余り、教育、研究(特に研究)が犠牲になっていることが統計データとして示されている。貴大学においても、単に経営だけではなく、総合的に何に重点を置くのかについてお考え頂ければ幸いである。

・病院の設備投資は、大学病院であるからには十分なものが望ましい。しかし、現在の医療制度のもどでそれを診療収入のみに依存しようとする、大きな無理が生じる。他の財源をどのようにするかは、横浜市との協議が必要である。

-